

[平成11年度 普及に移す技術]

ダイズカメムシ類の発生活長と要防除水準							
[要約] <u>カメムシ類</u> は8月下旬頃(若莢期)から圃場への侵入が多くなり、9月中旬(子実肥大期)に発生最盛期となる。また <u>要防除水準</u> は8月下旬で0.3頭/100茎、9月中旬で4.0頭/100茎である。							
福井県農業試験場・生産環境部・昆虫研究グループ						契機	研
部会名	生産環境	専門	作物害虫	対象	豆類	分類	普及

[背景・ねらい]

ダイズのカメムシ類は子実を吸汁加害する事によって品質や収量に影響を与える。現在カメムシ類の防除は、他の害虫との同時防除で、慣例的に8月から9月にかけて2, 3回スケジュール防除により実施されている。今回、防除の必要な密度を明らかにし、防除回数削減と効率的な防除を行う。

[成果の内容・特徴]

1. カメムシ類は8月下旬(若莢期)から圃場に侵入し、9月中旬(子実肥大期)に生息密度が最も高くなる(図1)。
2. 福井で発生するカメムシの種類はホソヘリカメムシ、ブチヒゲカメムシ、アオクサカメムシおよびイチモンジカメムシなどである(表1)。
3. 圃場侵入期と発生最盛期の生息密度には高い相関がある(図2)。
4. 圃場侵入期(8月下旬)の生息密度および発生最盛期(9月中旬)の生息密度は、それぞれ被害粒率と高い相関がある。

また被害粒率5%を被害水準とすると、8月下旬(圃場侵入期)が0.3頭/100茎、9月中旬(発生最盛期)が4.0頭/100茎以上で防除が必要である(図3、図4)。

[成果の活用面・留意点]

1. 5月下旬～6月中旬播種のエンレイにおいて、8月下旬(圃場侵入期)と9月中旬(発生最盛期)に生息数を見とり調査することにより、防除の要否を判断できる。  
見とり調査は、1圃場あたり100茎ずつ3カ所調査を行う。
2. 年次によりカメムシ類の発生時期が変動することがあるので、圃場侵入期の調査は莢がつきはじめた頃から、発生最盛期の調査は9月10日頃から行う。
3. この要防除水準はカメムシ類の加害によっておこる落莢による減収には適用できない。

[ 具体的データ ]

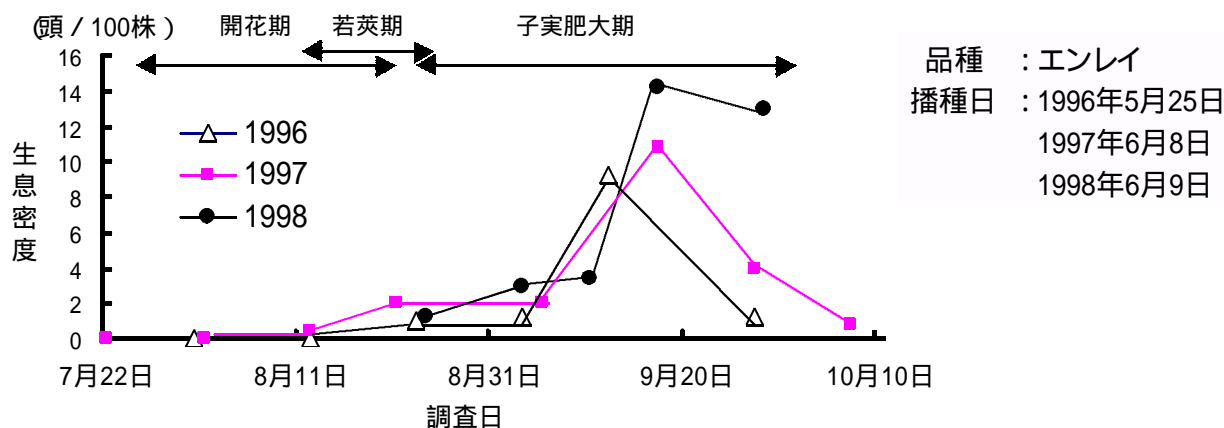


図1 カメムシ類の発消長

表1 カメムシの種類別発生の比率 (%)

	1996年	1997	1998
ホソヘリカメムシ	33	74	29
ブチヒゲカメムシ	66	26	0
アオクサカメムシ	0	0	50
イチモンジカメムシ	0	0	21
その他	1	0	0

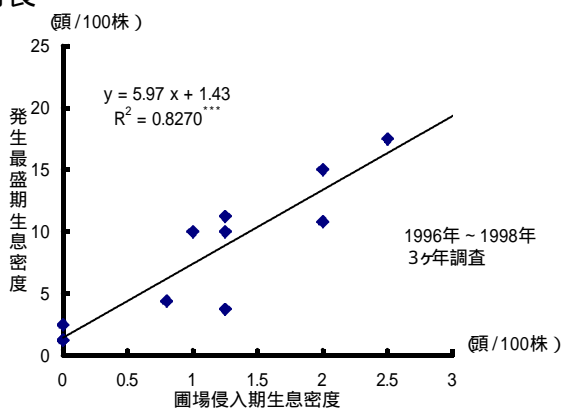


図2 圃場侵入期と発生最盛期の生息密度

\*\*\* 1%水準で有意

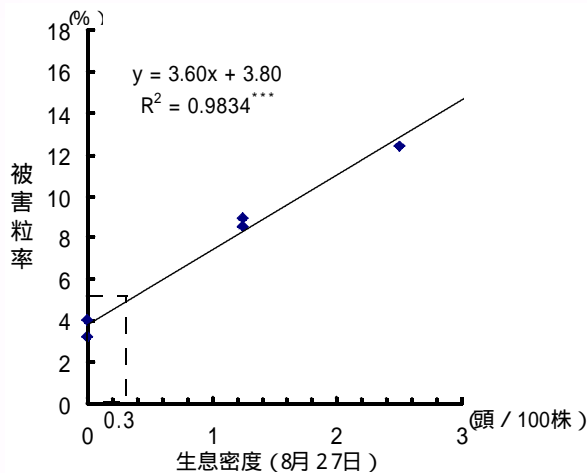


図3 圃場侵入期の生息密度と被害粒率

\*\*\* 1%水準で有意

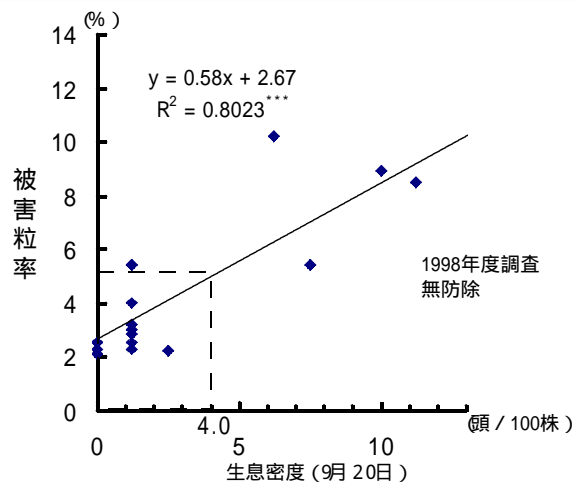


図4 発生最盛期の生息密度と被害粒率

\*\*\* 1%水準で有意

[ その他 ]

研究課題名 : ダイズのカメムシ類の発生生態の解明と要防除水準の策定

予算区分 : 県単

研究期間 : 平成10年度 (平成8～10年)

研究担当者 : 淵上小百合・高岡誠一・松下ひろみ (現坂井農業改良普及センター)

発表論文等 : なし